

潜入調査

古橋廣之進記念
浜松市総合水泳場

ToBiO

トビオ

世界各国の代表選手が集結！ 日本トップクラスの国際公認プール

古橋廣之進記念浜松市総合水泳場（愛称ToBiO）は、その名の通り、古橋廣之進を称え建設された水泳場で、国際規格の50mプールや飛び込みなどを有する競技施設だ。シンクロナイズドスイミングJAPAN OPENが開催されたことがあり、2026年にはアーティスティックスイミングのアジア競技大会会場となる。また2018年12月には競泳日本代表の合宿も行われ、2020年東京オリンピックではアメリカ飛込チームが事前キャンプ地として使用する。そのほか、日本選手権や日本学生選手権（インカレ）、競泳国際大会代表選手選考会も開催されており、日本新記録が数多く樹立されている。

そんな全国のトップスイマーが集結するToBiOでは、毎年夏、浜松ならではの二つのビッグイベントが開催されている。

一つは、古橋廣之進の異名「フジヤマのトビオ」にちなみ創設された、浜名湾水泳協会主催「とびうお杯全国少年少女水泳競技大会」。小学生対象では唯一、日本水泳連盟が公認している全国大会である。出場者の中には、北島康介や瀬戸大也など数多くのメダリストも存在する。今や「とびうお杯」は世界へと続く登竜門となっているのだ。

そもそも一つは、50年以上前から続く伝統行事「30分間回泳」だ。浜松市内の小学5年生がチャレンジするもので、30分間泳をつかずに50mプールで泳ぎ続けるという催しである。泳法は問わず、浮いているだけでも良い。とにかく30分間耐えれば良いのだが、相当な忍耐力と体力が必要だ。児童たちはこの日のために体育の授業を中心に練習を重ね、本番に挑む。当日は大勢の教員や保護者たちが見守る中で行われる。回泳合格率は9割以上。歴代合格者は27万人超。歴代の合格者全員が名簿に記名され、毎年新しく名前が連ねられていく。

きれいで
大きいお～！
観覧席も
たくさんじゃ

ToBiOの
ココがすごい！
①競泳メインプール
国際公認の50m×10コース。隣には25m×8コースのサブプールもある。可動床でプールの深さは0.3m～3mまで調整が可能。



ToBiOの
ココがすごい！
②飛び込みプール

3～10mまで四段階の高飛び込み、1mと3mの板飛び込みを設置。メインプールと同様、国際公認プール。可動床を設置しており、飛び込みやアーティスティックスイミング、水球など用途によって水深を変更できる。

ToBiOの
ココがすごい！
③スイムミル

日本国内に数台しかない「垂直循環型回流水槽」スイムミル。水槽の中で水流を起こし、水流に逆らって泳ぐことでフォームをチェックすることができる。

古橋廣之進記念
浜松市総合水泳場ToBiO

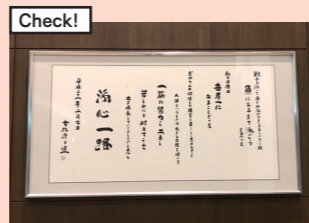
問/053-489-5463
住/浜松市西区篠原町23982-1
営/月曜～土曜:9:00～21:00
日曜～19:30
休/第1月曜(8月は第4月曜、月曜が祝日の場合はその翌日)、年末年始(12/30～1/3)、ほか施設保守点検日あり。
※料金など詳しくはHPから
<https://www.hgw.co.jp/tobio/>



注目! 期間限定イベント

水泳ニッポンの父
**田畑政治展
開催中**

2019年大河ドラマ「いだてん」の主人公の一人である田畑政治と古橋廣之進について紹介しています。1964年の東京オリンピック招致や水泳ニッポンを確立した功績、2人の交流などを、記念品やパネル、新聞記事で説明しています。
■期間/2019年12月29日(日)まで 料金/無料



古橋廣之進は終戦時に「魚になるまで泳ごう」と決意。目標を世界一に定め、座右の銘を「泳心一路」とした。ToBiOのロビーには、古橋直筆の貴重な書が飾られており、多くのスイマーの心を打つと評判である。

ToBiOの BIGイベント ②30分間回泳

30分間回泳は1966年(昭和41年)に始まり、江之島水泳場で実施されていたが、2009年(平成21年)から、古橋廣之進記念浜松市総合水泳場ToBiOに会場を移行。水難事故防止のため、皆が泳げるようにという目的から始まったため、当初は「30分間皆泳」という名前だった。しかし、ぐるぐる回って泳ぐ様子からいつしか「30分間回泳」とされ、今なお伝統行事として毎年夏に開催されている。



写真提供/浜松市小学校体育連合

ToBiOの BIGイベント ①とびうお杯 全国少年少女 水泳競技大会

とびうお杯は田畑政治が亡くなった3年後、1987年(昭和62年)に始まった。田畑と師弟関係にあった古橋廣之進につづける号令のもと、小学生だけの全国大会として開催されるようになった。競技種目は競泳12種目と飛び込み。毎年8月、全国の小学生トップスイマーが集結し、熱戦を繰り広げている。



写真提供/中日新聞社